

NCS 6008 の RP コンソール回線問題のトラブルシューティング

目次

[概要](#)

[背景説明](#)

[影響と関連するリスク](#)

[はじめに](#)

[RP に関する問題のトラブルシューティング](#)

概要

このドキュメントでは、Cisco 6008 シリーズ Network Convergence System (NCS6008) における、ルート プロセッサ (RP) のコンソール回線とコンソール ポート間のハードウェア問題または通信問題のトラブルシューティング方法について説明します。

背景説明

NCS6008 RP には次の 3 つのコンソール ポートがあります。

- このポートがシステムに管理者平面を提供する仮想マシンのコードネームである、カルバドスのコンソールポートに接続する **コンソールポート 0**。起動プロセス中に、コンソールポート 0 は BIOS 画面を表示します (ブート デバイスを変更する場合などに、この画面が必要です)。Calvados CLI インターフェイスは仮想アクティブ/スタンバイ モードで動作します。つまり、RP0 がアクティブ Calvados CLI/ログイン プロセスになっている場合、RP1 とのコンソール セッションを開くと、内部で RP0 Calvados セッションにリダイレクトされます。このプロセスは混乱を招くことがあるため、対話の相手となっている物理 RP が実際に重要である場合は、プロンプトによく注意してください。たとえば、NCS6008 システムの RP0 から出されるプロンプトは、 **sysadmin-vm:0_RP0#** です。
- このポートが他のどの IOS XR システムのコンソールポートと同様に **規則的な Cisco IOS® XR コンソールおよび機能に接続するコンソールポート 1**。起動プロセス中に、RP1 はホスト オペレーティング システム (OS) からの起動メッセージを表示します。このコンテキストでホスト OS に該当するのは、最下位レベルの Linux OS シェルです。XR OS が起動すると、アクティブ IOS XR OS を実行する RP はコンソール セッションに対し、通常ユーザ名とパスワードを求めるプロンプトで応答します。ログインすると、システム設定に定義された権限とアクセス レベルに応じて、必要なあらゆるアクションを実行できます。スタンバイ IOS XR 仮想マシンとして稼働する RP に対してコンソール セッションを開始すると、なじみのある「This (D)RP Node is not ready or active for login /configuration」メッセージが

表示されます。

- このポートが内部異文化接続 (CCC) コントローラに接続する、および (少なくともこの資料のスコープのために) 何でもに設定されるか、または接続される必要はありません
コンソールポート 2 。

影響と関連するリスク

コンソールポートにアクセスできない場合、このドキュメントで説明しているプロセスによって通常のサービスが影響を受けます。サービスに対するビジネスインパクトはありません。

はじめに

次のセクションで説明するプロセスを試す前に、ケーブルに問題がないことを確認してください。同じケーブルを使用して、コンソールを別の RP に接続できるかどうか確認してください。

また、`show process devc-conaux-con` コマンドを入力して、システムステータスを確認する必要があります。

```
show processes devc-conaux-con
```

問題が見つかった場合は、コアダンプを行ってプロセスを再起動します。出力で問題がないことが確認されたら、次のセクションに進んで問題を切り分けます。

次に出力例を示します。

```
[host:~]$ stty -aF /dev/ttyS0
```

```
speed 115200 baud; rows 0; columns 0; line = 0; intr = ^C; quit = ^\; erase = ^?;
kill = ^U; eof = ^D; eol = <undef>; eol2 = <undef>; swtch = <undef>; start = ^Q;
stop = ^S; susp = ^Z; rprnt = ^R; werase = ^W; lnext = ^V; flush = ^O; min = 1;
time = 0; -parenb -parodd cs8 hupcl -cstopb cread clocal -crttscts-ignbrk -brkint
-ignpar -parmrk -inpck -istrip -inlcr -igncr -icrnl -ixon -ixoff -iucL -ixany
-imaxbel -iutf8opost -olcuc -ocrnl onlcr -onocr -onlret -ofill -ofdel nl0 cr0
tab0 bs0 vt0 ff0-isig -icanon -iexten -echo echoe echok -echonl -noflsh -xcase
-tostop -echoprt echoctl echoke[host:~]$
```

RP に関する問題のトラブルシューティング

注: この例では、トラブルシューティングのために RP0 のコンソール 0 を使用します。コンソールのトラブルシューティングはホストから実行する必要があります。

RP の問題を切り分けるには、次の手順を実行します。

1. システムに管理者としてログインします。

```
RP/0/RP0/CPU0:NCS6008-A#admin
Tue Mar 17 13:51:05.919 UTC
```

```
<username> connected from 127.0.0.1 using console on xr-vm_node0_RP0_CPU0
```

```
sysadmin-vm:0_RP0#
```

2. システム管理ページから、コンソール 0 のホストに対してセキュアセル (SSH) セッションを確立できるか試してみます。注: この例でのコンソール 0 の IP アドレスは 10.0.2.2 です。

```
sysadmin-vm:0_RP0# run chvrf 0 ssh 10.0.2.2
```

```
Thu Mar 12 05:03:37.262 UTC
```

```
[host:~]$
```

```
[host:~]$ >> Console 0 host.
```

3. どちらの方向で接続が失われるかを判別するために、ホストからコンソール回線の方向、およびコンソール回線からホストの方向に echo テストを実行します。以下の例では、ホストからコンソール回線に「Hello I am console 0」メッセージが送信されます。

```
host:~]$ echo Hello I am console 0 >/dev/ttyS0 >> Sending from S0 i.e. Console0
```

```
[host:~]$
```

コンソール回線では、コンソール 0 のホストから送信されたメッセージが表示されます。

```
Connecting to Device Port 30.Connected to port 30. Escape sequence is ESC A TEST
```

```
Hello I am console 0
```

4. コンソール回線とコンソール 0 のホストとの間で通信が行われることを確認するために、コンソール回線でテキストを入力します。入力中のテキストを確認できないとしても、ホスト側で出力されるはずで

```
[host:~]$ cat < /dev/ttyS0 >>>
```

```
Connecting to Device Port 30.Connected to port 30. Escape sequence is ESC A
```

```
<Typed Hello console 0 redirect.>
```

以下に示すように、同じ文字がコンソール 0 のホストでも表示されます。

```
[host:~]$
```

```
Hello console 0 redirect. >>> Message coming from console line.
```

5. 通信が双方向で行われていることを確認した後は、コンソール 0 のホストからコンソール回線のノイズの消去を試行できます。

```
[sysadmin-vm:0_RP0:~]$ stty -F /dev/hvc0 -ignpar -ignbrk[sysadmin-vm:0_RP0:~]$
```

```
[Console Server ]> c d d 30
```

```
Connecting to Device Port 30.Connected to port 30. Escape sequence is ESC A
```

```
sysadmin-vm:0_RP0# run
```

```
Thu Mar 12 05:18:14.486 UTC
```

```
[sysadmin-vm:0_RP0:~]$ stty -F /dev/hvc0 -ignpar -ignbrk
```

```
[sysadmin-vm:0_RP0:~]$
```

注: このプロセスで問題が解決した場合、Cisco Bug ID [CSCuq84495](#) が発生していた可能性があります。